

早稲田大学 教育学部 日本史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	全体としては早稲田らしい問題が随所にみられ、早稲田に適応した対策を取っているか否かで点差がつく問題であった。ただ、本学部に目立つ、正誤問題における「すべてあげよ」問題には悩まされただろう。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	古代の東北地方	問7はちょうど10年前の同学部でも出されていた問題で、狂喜した人もいるのではないか。過去問を解いておくことの重要さに気付くだろう。しかし、それよりもっと効率がいいのは、過去問分析に乗った予備校の授業を受けることであるのは言うまでもない。	やや易
II	元寇・キリスト教の伝来	史料(1)は早稲田定番の史料。問6は消去法で絞り込もう。問4・7ともに選択枝オの判別に悩まされる。作問自体の瑕疵とも言えるが、大学当局はそんなことはおかまいなしのようである。	標準
III	慶安の御触書	最近「慶安の御触書」を「出ない」と言って教えない先生がいるらしいが、まったく教えていなかったらこの問題はどうなるのだろう。早稲田の過去問を分析していれば、避けて通ることができないのは明らかだった。問6・8が難問。	標準
IV	明治時代の思想	よもや小野梓を知らない早稲田受験生はいないだろうが、問2は正解できただろうか。問7はあるテクニックを使えば解けた。問8も選択枝を比較すれば、なんとか正解することが可能だった。早稲田にはこうした考えて解く問題が多い。そこが慶應と違っておもしろいところである。	標準
V	戦後の日本	問1の「略称で記せ」を読み飛ばさず解答しただろうか。また問3は通年授業では扱っていないが、冬期講習では扱っていた内容であった。	やや易

【難易度の表記について】

<易> 全問正解できる問題です

<やや易> 1問を除いて、残りは正解できる問題です

<標準> 2問を除いて、残りは正解できる問題です

という具合になっています。

